

だんないの道

第18号

2015年4月30日発行

発行者：NPO法人CIL だんない

代表者：美濃部裕道

連絡先：〒529-0423 滋賀県長浜市木之本町
千田681番4

TEL : 0749-50-3639

E-mail : dannai@ae.auone-net.jp

代表あいさつP1	利用し続けることP2
電動車いすサッカーP2	僕がだんないに入って変わったことP3
コラム ヨリの雑記帳P4		

代表あいさつ

新年度がスタートしました。「だんない」には、この4月から幼稚園バスが毎日停まるようになりました。送迎のバス停になったのです。日々の活動に忙しさを感じる心に、午後2時過ぎの子どもたちの声は一瞬の安らぎを与えてくれます。そしてリフレッシュし、またいつもの慌ただし活動へと戻ります。ちょっとした微笑ましい光景に癒されながら、5年目の「だんない」は始まっています。本当に感謝です。

さて、このほかにも「だんない」にとってうれしいことがありました。ブログなどにも書いたので、すでにご存知かと思いますが、新たな当事者職員が加わりました。名前は大橋早香、「はやちゃん」と呼んでいます。彼女はまだ18歳ですが、障害についての考え方や、それを変えていこうとする強い気持ちなど、とにかく障害者が活動するうえで備えておきたい素質があります。ひとこと言えば大体が伝わるという、とても将来が楽しみな彼女です。みなさんも、温かく見守ってください。

ところで、前号でも書きましたが、5月にシンポジウムを行います。16日(土)を予定していましたが、関西地区のCIL系団体の多くが加盟する組織のイベントとかぶってしまいました。そこで本当に勝手ですが、5月10日(日)13時～、勤労者福祉会館「臨湖」にて開催することに変更いたしました。予定を空けていただいた方には申し訳ありません。お詫びして訂正させていただきます。

その上で、今回のテーマは「障害女性」。京都では、4月に「京都府障害のある人もない人も共に安心していきいきと暮らしやすい社会づくり条例」が全面施行されました。全国では珍しい障害女性への配慮という複合差別の問題に言及しています。そこで、障害女性の社会参加の問題に着目し、湖北地域で障害女性がかっと活発に社会に出ていき、さらには自立生活運動を展開できるようになるには、どのような社会環境が必要かを考えたいと思います。このシンポジウムを通して、湖北地域の障害女性問題を共有し、障害女性も生きやすい地域像を、みなさんとともに見いだしたいと考えています。ゴールデンウィーク最終日でもあり、お忙しいとは思いますが、皆様のご参加をお待ちしております。

さて、もうすぐ5月になります。定期総会を行う時期がやってきました。会員の皆様におかれましては、何かとご多忙のこととは思いますが、総会へのご出席をいただきますようお願い申し上げます。つきましては、5月25日(月)午前10時より、当法人事務所にて開催させていただきます。

前号でインフルエンザにかかり、障害が重度化した旨を書いたことで、とても心配していただいた方がおられたようです。しかし、私自身は非常に元気に日々活動しています。ただ、数年前と比べると、ちょっとずつ体の可動域が狭くなったり、筋緊張がきつくなったりしてきているというのは事実であり、それに対する心境を述べようとしたものです。もし、「美濃部は弱っているのでは」と誤解された方がおられましたら、申し訳ありませんでした。美濃部は少しハゲが増してきたものの、元気にしております(笑)。ぜひ、ハゲましに来てください。今後とも、ご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

美濃部 裕道

利用し続けること

小里 和也

私は、だんない通勤のためほぼ毎日彦根駅～木ノ本駅を利用しています。
そして、彦根駅を利用していて駅員の対応や意識等が変わっていききました。
以前は、

- ・ 10分前でないと乗せてもらえない
- ・ 本人ではなく目線は介助者のほうへ向く
- ・ 駅員と同行でないとホームに降りれない
- ・ 安全のためと言って、電車に乗る位置も聞いてもらえず車掌前に乗せられる

でも、電車に乗らないと通勤できないということもあり必死になって、駅員に「乗せてください 目を見て喋ってください ホームに先に降りてます」等のことを諦めず駅員に伝えていき少しずつ変わっていききました。
そして現在では、5分前でも乗れたり、しっかり僕を見て話してもらえたり、どの位置に乗りたいか等を聞いてもらえ、今では車椅子スペースに乗れるようになりました。

最近では、僕を見た瞬間、行き先を言っていないのに「木ノ本駅まで」と聞かれます（笑）

このようにして、車椅子当事者が毎日のように外に出て利用し伝えることによって少しずつ人の対応や意識が変わっていきます。

また、駅だけではなく店等とかにも何回も利用していくことで、気軽に入店できる店が増え障害者が当たり前のように出歩きやすい社会が変わっていくと思います。

それと一言、僕の電車での行き先は木ノ本駅だけではありません。 大阪にも行きます。（笑）

電動車いすサッカー

大橋 早香

私は、電動車いすサッカーをやっています。昨年の11月か12月くらいに始めました。

きっかけは、学校の先生に「電動車いすサッカーの大会があるから、見学に来ないか？」と誘われたことでした。

その時は、イメージが全くできず、「ボールはどうやって蹴るんだろう？どうやってプレイするんだろう？」と疑問ばかりが浮かびました。それと同時に「障害者のスポーツなら、おとなしい感じのスポーツなんだろうな。」というふうに思っていました。でも、大会に行って実際にプレイを見てみると、サッカー用の電動車いすはスピードがあり、電動車いすを回転させて、パスやシュートをしていました。さらに、車いす同士がぶつかったりして、私が、思っていたよりもずっと迫力がありました。

その大会を見て、「私もサッカーがしたい！」と思いました。それから、サッカーの練習に参加し始め、参加しているうちに「ずっと、サッカーをやっていききたい。」と思ったのです。そして、今、私が所属している「FC.LUTESTAR SHIGA」に入りました。

私は、キーパーをするのが好きです。自分のゴールに蹴られてきたボールをとめることができた時、すごく嬉しいからです。でも最近は、攻撃をするのも楽しいです。パスをうまくできた時や、うまくパスを受けられた時、なんといっても、ゴールを決めることができた時はすごく嬉しくて、最高の気分になります。

サッカーを始めてから、いろんな所に練習試合に行ったりして、外の世界に出ることが楽しいです。電動車いすサッカーに出会って、いろんな人と知り合えたり、外に出ることが楽しいです。それに、リュートのメンバーは、明るくて面白い人が多いので、サッカーがいっそう楽しいです。サッカーに出会えて本当に良かったです。

僕がだんないに入って変わったこと

前田 貴行

僕は、去年の6月にだんないに入社しました。前は、社員食堂で働いていました。

前の職場では、米炊きや洗い物や盛りつけやその他、いろいろなことを一ヶ月交代で作業していました。覚えることがたくさんあり注意されたり失敗して怒られたこともありました。でも、職場の皆さんや店長さんにはいろいろなことを教わりました。

そして、去年の年末ぐらいから体調を崩し、仕事もいけず体調も良くならなくていろいろ考えていました。それから、ハローワークの求人票をもらってきて調理系の仕事を探しましたが、なかなか思い当たる仕事がなくっていた時に、たまたま養護学校の同級生で友達の伊戸さんがだんないに入ったということを聞き僕も紹介してほしいとお願いをして一度だんないに見学に行きました。

見学に行った時も、体調が悪く見学中迷惑をかけてしまいました。

見学に行ってしばらくしてから面接があり、ヘルパーの資格がいるとのことで5月から毎週日曜日に講習を受けに大阪まで電車で行きました。そしてしばらくしてから、だんないに入社しました。

体力的にいけるかどうか不安でしたが問題なく出勤できているのでよかったと思います。

だんないに初出勤のときは正直、前の仕事とぜんぜん違っていたのでうまくできるかどうか不安でしたが、だんないの当事者職員や先輩ヘルパーの皆さんにいろいろ教わり、いまでは失敗する事もありますが、うまく仕事として頑張っていけていると思います。

前の職場ではあんまり喋ったりする事が苦手で、だんないでもうまく当事者職員やヘルパーのみなさんと会話出来るかどうか不安でしたが、そんなこともなく今では会話できていると思います。だんないの行事として夏にはILPで、グリーンパーク山東でバーベキューをしました。食材を切ったり火をおこしたり焼きそばを作ったりしました。だんないでも、料理を作ることもありました。だんないで、料理を作る時は指示介助で料理を作るので、今まで自分で考えて作っていたので、指示介助で料理を作ることが難しくてなかなか慣れるのが難しかったけど、今はうまく指示を聞き、的確に作れるようになりました。これからも、指示介助で、いろんな料理を作りたいと思いました。

だんないに入社してからもうすぐ1年になりますが、今の自分と入社する時の自分と比べると、自信が付いたと思いました。

これからも、だんないのヘルパーとして大変なこともあると思いますが、それでも精一杯努力し頑張っていこうと思います。

コラム

ヨリの雑記帳（17）

先日、某福祉関係の大手雑誌のコラム欄の執筆依頼がC I Lだんないにきた。筆者は誰でも良いということであった。その時は、「某雑誌も、筆者不足なのかなぁ」と思いながら、成り行きもあり、私が執筆を担当した。連載コラムということで、内容が重ならないようにこれまでのコラム欄の筆者方々の原稿を送ってもらった。某誌との仕事は、以前に短い論文の執筆を依頼されたこともあって、これで2回目である。要領は得ているはずであった。しかし、今度はコラムの執筆ということで、慣れない「コラム」という形態に苦戦した。また、内容も書きぶりによっては、どうしても医学モデルの観点に陥ってしまう可能性のあるテーマであったので、かなり苦戦を強いられた。

短い文章で社会モデルの味を出すことの難しさを十二分に感じながら、指定された一行字数と行数に合わせて出稿することになった。あまりにも苦戦したものだから、出稿時、某誌編集部の方に、「ご指導のほどお願い申し上げます。」と一言申し添えた。私としては、自分の原稿に対する「自信のなさ」と、某誌編集部に対する尊敬の念から、この言葉が無意識的に出たのであった。しかしながら、1ヶ月ほど後、この言葉がとんでもない「蛇足」であったことに気付くことになる。

出稿当日、軽微な手直しを経て、本入稿なった。約1ヶ月後の某金曜日の夜、グラ刷りがメールで送られてきた。メールを見ると4日以内で要校正とのこと。たまたま、金曜日から3日間の予定で出張中ではあったが、金曜日にメールを見ることが出来、校正案を考えることができたが、校正期間4日というのは、異例の短さであった。

さらに、添付してあったグラ刷りをみて、目を疑った。赤で「2稿」と書かれていたのであった。と、いうことは、初稿があったはず。「自分がメールを読み飛ばしていたのか？」と気になって、メールの過去ログを確認するも、それらしきメールは来ていなかった。

「初稿をみていない上の2稿なので、あまり手を加えられないなぁ」と思いながら、次に内容のチェックに移った。2行ほど読んだ時点で、無意識的に「原稿に手が加えられている！」と叫んでしまった。そう。原稿の文意はある程度保っているものの、作話があったり、大幅にカットされていたりしていたのだ。送られてきたメールを読み返すと、「入稿後、内容の趣旨が変わらない程度に原稿に手を入れさせていただきましたので、念のため、内容のご確認をお願いいたします。（原文のまま）」と書かれていた。今まで、雑誌や新聞等の原稿の仕事をさせていただいたこともあり、多少スタイルシート（注：雑誌や新聞は、表記等を統一するために、ある一定の編集ルールをそれぞれもっている。例えば、「障害」の表記を「障がい」と統一するなどのこと。）を適応する関係上、手を加えられることはあっても、内容に大幅に手が入っているグラ刷りは初めて見た。

原稿を見られたのが、金曜の深夜だったので、月曜になって某誌編集部の方に初稿の件と原稿改訂の件を電話でたずねた。編集部の担当者いわく、初稿は、編集部だけで確認したとのこと、改訂の件は、あくまでも原稿整理であるとのことであった。長年、学術論文や雑誌、新聞の関係でグラを多く見てきたが、初稿が見られないということは、これまで経験したことがなかった。もちろん、論文には、事前に第三者が内容をチェックする

という査読制度というものがあることがあるが、この査読も入稿前に済ますことが前提なので、基本的にグラ刷りでは、スタイルシートの適用はあるものの、内容に手が入ることはない。

そのようなことがあって、某誌編集部には、今回のような後手後手の状態になってしまった経緯をお聞きすると、全く反省の色がうかかひ知ることができない。つまり、このコラムのコーナーは、障害者当事者の原稿をもとに、某誌編集部が原稿に手を加えて、あたかも、当事者が書いたように掲載しているコーナーであったということが会話の中から判明したのであった。

無論、某誌は日本を代表する福祉関係の雑誌のひとつである。大学教授などの有識者も執筆陣に加わるなど、その伝統と格式は、雑誌の信憑性を高めてきたはずであった。しかし、今回の一件で、その長年にわたって作り上げられてきた信憑性は、私の中では地に落ちた。そう、某誌の当事者の声のコーナーの一部は、確実に当事者の原稿を参考に、編集部が訴えたい内容に手を加えて、あたかも、当事者の声のように作り上げられていたのではないか。だからこそ、「筆者は誰でも良い」という依頼だったのではないか。私は、はじめからそれに気付くべきであったし、「ご指導のほどお願い申し上げます。」と言うべきではなかったのである。

私は、この事実を、自分自身の身を通して知ったとき、大きく落胆の色を隠せなかった。発行部数や定期購読先を考えると、某誌はある意味で、障害者福祉のオピニオンリーダー誌的存在である。その雑誌の当事者の声のコーナーが意図的に作り上げられたものであったなら、非常に残念なことである。

確かに、私も同人誌の編集者を6年していた経験もあるし、この『だんないの道』の編集にも携わっている。私としては、スタイルシートの適用や誤字脱字等の指摘にとどめたいのであるが、どこまで筆者さんに指摘するか迷ってしまうことも多々あった。最近では、私は筆者の文を大切に思い、なるべく指摘を減らすことにしている。それにしても、1500字にも満たない原稿に20カ所以上、手が入っている状況って、ほんとうにトホホである。

(よりたか つねのぶ)



NPO 法人 CIL だんない

〒529-0423

代表 美濃部裕道、副代表 市川正太

滋賀県長浜市木之本町千田681番4

事務局長 頼尊恒信、理事 横山卓馬

TEL : 0749-50-3639

URL : www.ab.auone-net.jp/~dannai

FAX : 0749-50-3961

E-mail : dannai@ae.auone-net.jp

郵便振替口座番号 : ゆうちょ銀行木之本支店 00940-2-209115

加入者名 : NPO 法人 CIL だんない